



|        |               |       |
|--------|---------------|-------|
| 01...  | お米でアジアをむすびましょ | 04:53 |
| 02...  | 泪の川           | 04:41 |
| 03...  | 花火 -hanabi-   | 05:02 |
| 04...  | 雪うさぎ (メロのみ)   | 04:58 |
| 05...  | 路地裏で          | 04:30 |
| 06...  | SUNSUN        | 05:26 |
| 07...  | あまつたえうた       | 04:49 |
| 08...  | 真国山海          | 07:01 |
| 09...  | 雨女 (ume)      | 04:35 |
| 10...  | すべらんうどん       | 04:23 |
| 11...  | 田んぼでお米を作りましょ  | 04:25 |
| 12.... | 真風 2012       | 08:48 |

## お米でアジアをむすびましょ

田んぼでお米を作りましょ 自分の食べる分くらい  
空はスカラカンと青空で とってもいい気持ち

耕し 水はり 畦を塗り 苗を一直線に植えましょ

みんなでお米を作りましょ 近所さんも借り出して  
腰は痛いし泥だらけ だけどいい気持ち  
てなこと言ったりなんかしちゃってね  
【フゥ〜】

田んぼでお米を作りましょ じいじとばあばの分くらい  
お日さまピッカリコンと輝いて とってもいい天気

水抜き 中干し 草を引き 稲穂がブクブクコンとぶくらんで

おいしいお米を作りましょ お隣さんにも声かけて  
日焼けも夕焼けも真っ赤っか 明日もがんばろう  
とかなんとか言ったりなんかしちゃってね  
【フゥ〜】

黄金 (こがね) の棚田を揺らす風 群れて泳ぐように赤とんぼ

田んぼでお米をつくりましょ 家族の笑顔の分くらい  
もしもドッサリコンと穫れたなら みんなに配りましょ

おいしいお米を作りましょ しあわせ感じる分くらい  
おにぎりガブリンチョとほおぼって アハハと笑いましょ  
てなこと言ったりなんかしちゃってね  
【フゥ〜】

01 曲目の『お米でアジアをむすびましょ』と 11 曲目『田んぼでお  
こめを作りましょ』は、アレンジが違うけれど同じ歌詞です。  
使用したイベントの主旨を考慮してアレンジを変更しました。違う  
曲みだいなったので二つとも入れてしまいましたよ。

## 泪の川

薄紅の丘に登り 涙一つほほ伝って あの日のこと思い出す  
夏の香りに君を想う 十九になった私の 夏の物語  
紅いホオズキ キュッキュと囁めば  
山のこだまか蝉時雨

同じ夕日 君も  
どこぞで見上げ泣いてるか

★碧い笹舟 小川のさらさら  
深い想い 君にとどけ

井戸場で泳ぐ西瓜見やれば  
君の唇 想い出す

祭りの夜の 君の  
澄んだ瞳忘らりょうか

泪の河 幾重にゆらゆら  
恋し想い 君にとどけ

★repeat

陽炎のぼる夏に想う

## 花火 -hanabi-

突然の口づけは あなたからの贈り物  
二人手をつないで 遠い花火ながめてた

ススキのフクロウは 十五夜までの約束  
部屋の一輪ざしに 今もまだ刺さってる

忘れられない思い出が 夏の空ににじんでき  
優しい笑顔にもう一度 逢いたくて

花火一つ空に咲いて あなたのこと思い出す  
浴衣の帯がきつくて 胸を締め付ける

日暮れて帰り道 御月の月きらきら  
近道森の道 怖いけど怖くない

愛しすぎる思い出よ 夏の風に舞い上がれ  
きつときつとまたいつか 逢えるから

花火一つ空に咲いて あなたのこと思い出す  
浴衣の帯がきつくて 胸を締め付ける

碧い夜空あなたと 二人駆ける夢……

涙一つほほ伝って あの日のこと思い出す  
十九になった私の 夏の物語

花火一つ空に咲いて あなたのこと思い出す  
浴衣の帯がきつくて 胸を締め付ける

## 路地裏で

青い空を探してビルを見上げた  
マンホールの湯気と排気ガスがきき分けて  
鈍色に光る窓

煉瓦歩歩いて未く染まる場所へ  
夕闇がもうすぐ色を奪うまで  
目を閉じてここにしよう

きつと僕ら悲しみに慣れてしまっ  
ていつもと変わらない夜を過ごして

濁った夜空の星を数えながら  
君と逢った日を思い出してる  
少しだけ優しくかった

きつと僕ら痛みにも慣れてしまっ  
てまた昨日のような今日を過ごして

ヤッホー聞こえますか  
僕らはここにいるよ  
ヤッホー震えながら  
僕らはここにいるよ

さあ生きる為の闘いが始まる  
さあ泣拭いて闘いを始めよう

## SUNSUN

青い空を探涙が止まらなくて そのわけを知りたくて  
忘れていた記憶をたどる  
愛し合ってる二人はいつからここにいたんだろう  
懐かしくて初めての場所

風のように流れる時の隙間に咲く  
名もない花のように飾らずおごらずただあるがままに

サンサンと降り注ぐ光に二人で包まれていたい

生きることの答えは遙かな記憶の海の  
底に眠る息をひそめて

言葉は優しくさより争いを生んだ  
ときめくこの胸に愛しさ切なさが螺旋を描く

サンサンと降り注ぐ光は二人をいつまで包むだろう  
止めどなく溢れる想いは愛してる喜びと悲しみ

つづら折れの過去とざわめく未来の狭間に立ち続ける

サンサンと降り注ぐ光はいつの日か二人を迎えるだろう  
やがてまた新しい命がこの光に優しく包まれて

涙が止まらなくてそのわけを知りたくて  
眩しい空を見上げていた

## あまつたえうた

あまのたみのいいつたえ  
やまのたみのいいつたえ  
そこはむすびのかみはかり

よりくるものと むかえるものと  
いずれはまじるさだめなる  
ここはひみづのしまくにぞ

かたらうものと ききいるものと  
やがてはあいづちしずめあう  
ここはひとのひながたぞ

さあゆけ やれよべ かたとなれ  
いきのかぎりにとけやわせ  
いきふき いきはき かみとなれ

あまなるあまと うみなるあまと  
ふたつのあまのいりまじる  
ここはあおのしまくにぞ

ほむらがはしり しみずがおどる  
ひみづのくしびがなりなりた  
ここはかみのしまくにぞ

かぜきるおとと みしをのおとの  
まさちのねいろがひびぎあう  
ここはめぐみのしまくにぞ

さあよれ やれひけ ひととなれ  
たぎりのかぎりにまじりあえ  
こえふき こえはき かみとなれ

みのれよそでてといのりこめ  
つどえよむすべとねがいこめ  
ここはまことのしまくにぞ

ななよのときをついやして  
かみがかついでもりあげた  
ここはいわいのしまくにぞ

おぐなもおうなもみんなこい  
おきなもわらしもみんなこい  
とわのひとのかたとなれ

さあふれ やれふれ はいとふれ  
いのちのかぎりにたまをふれ  
たまふり たまふり かみとなれ

## すべらんうどん

おばちゃん おばちゃん  
おばちゃん おばちゃん  
おばちゃん 受かったで  
おばちゃん 受かったで  
うれしーうれしーうれしー  
腹減った

★お陽さまはサンサンと笑顔を照らして  
喜びの歌声が街中に響く

受かった 受かった  
おばちゃん 受かったで  
うれしーうれしーうれしー  
春が来た

おばちゃん おばちゃん  
おばちゃん おばちゃん  
おばちゃん また来たで  
おばちゃん また来たで  
たのしー たのしー たのしー  
腹減った

幸せの未来はこの手の中に  
アッハハハと笑い声も街中に響く

★repeat

またまたまた来た おばちゃん来たで  
たのしー たのしー たのしー  
腹減った  
うれしー たのしー おいしー  
春が来た